

中学校での AI 活用：指導と注意のポイント（改訂版 2025/2/10）

近年、ChatGPT などの対話型 AI が注目を集めています。中学校でも探究学習や情報活用スキルの育成を目的に導入を検討する場面が増えていますが、**リスク管理や指導方針の明確化が不可欠**です。以下のポイントを参考に、学校現場での AI 活用を検討してください。

1. 指導の基本姿勢：AI は「補助的ツール」

1. 主体はあくまでも生徒の学習意欲と教師の指導

- AI は課題解決や調べ学習のヒントを**与える存在**であり、学習内容・評価基準を決定するのはあくまでも教師です。
- 過度に AI へ依存すると、**学びのプロセスや生徒の主体性が損なわれる**可能性があることを意識しましょう。

2. 学習プロセスの可視化・振り返りを重視

- 生徒が AI から得た情報をどのように**取捨選択**し、どのような**根拠で判断**したかを確認できる仕組みが大切です。
- 単に AI の回答を鵜呑みにさせるのではなく、**事実確認（ファクトチェック）**や**多角的な検証**を促す授業デザインを意識してください。

2. 活用事例と留意点

1. 探究活動・調べ学習

- 生徒が興味を持ったテーマを AI に尋ねる → キーワードや論点を整理する上で AI が有効。
- **注意**：AI が誤情報を混ぜ込む場合あり。**複数の情報源と照合する**習慣づけを。図書館資料やインターネット検索との併用を推奨します。

2. 文章表現・作文指導

- 生徒の書いた文章を AI に「要約」「言い回しの提案」などをさせ、その**比較検討を通じて表現力を高める**。
- **注意**：コピー防止のため、「どこを参考にしたか」生徒に振り返らせる。著作権や公平な評価に配慮し、**プロセス評価**の仕組みを組み込むとよいでしょう。

3. 授業準備・業務支援（教員向け）

- 指導案のアイデア収集、ワークシートや学級通信の下書きなどに AI を活用。
- **注意**：個人情報や生徒の具体的指導歴を AI に入力しないこと。**守秘義務**や校内規定に従い、安全管理を徹底してください。

3. トラブル防止のポイント

1. 悪意のある利用への学級指導

- AI で誹謗中傷やプライバシー侵害文章を作成する危険を生徒に伝え、**いじめにつながる行為は厳禁**と徹底します。

- フロリダ州では AI が原因で児童が深刻なトラブルに巻き込まれた事例も報告されており、**早期の啓発とルール作りが重要**です。

2. AI 依存のリスク

- 生徒が「AI の答え＝絶対正しい」と誤解しないよう、「**疑問をもつ力**」「**再検証の方法**」を指導する。
- 心理的に不安定な生徒が AI に頼りすぎると、誤ったアドバイスを受けても誰にも相談せずに苦しむケースが海外で指摘されています。**気になる様子があればスクールカウンセラーや管理職と連携**を。

3. SNS 拡散の注意

- AI 生成文章や画像を SNS で広めると、**誤情報・不適切内容が一気に拡散**する可能性があります。
- 授業や学級指導を通じ、**投稿前の確認習慣**（ファクトチェック、他者への配慮）を徹底しましょう。

4. 思春期特有の配慮

1. 反抗期や自己主張が強まる時期

- AI を「味方」にして家庭や学校と対立を深める生徒が出る場合があります。
- 一方的に AI の主張ばかり取り入れず、**多角的な視点**を持つよう働きかける授業づくりが欠かせません。

2. 進路や将来への不安

- AI を使って「将来の職業」「受験対策」を調べる生徒が増えるかもしれませんが、**回答が最新・正確とは限らない点**を強調しましょう。
- 進路指導の場では、あくまで AI は**参考情報の一つ**にすぎないとし、生徒には保護者や教師との面談を通じて最終決定するよう促してください。

3. メンタル面への影響

- フロリダ州の事例などでは、AI との対話によって生徒が心理的に追い込まれたケースも報告されています。
- 生徒が AI から「自傷」「自殺」を示唆されるような応答を受け、**ショック**を受ける可能性もゼロではありません。普段から「**おかしいと感じたら誰かに相談**」を徹底し、教員同士の情報共有も適切に行いましょう。

5. 学校全体でのルールづくり

1. 導入方針の明確化

- 授業や校務で AI を活用する**範囲・目的・禁止事項**を学校全体で共有し、混乱を防ぎます。
- 保護者にも周知することで、家庭学習でのルールづくりにも役立ちます。

2. 使用可能ツールの指定

- 教育的価値やセキュリティ面を考え、**使用を許可する AI サービスを限定**するのも有効です。
- フィルタリングや年齢制限等、学校や教育委員会のシステム管理と連携しながら整備してください。

3. 校内研修や情報交換

- 教員同士が AI 活用事例やトラブル事例を共有し、**常にアップデート**する姿勢が望ましいです。
- 教育委員会や大学・企業との連携により、最新の技術動向やリスク情報を得ることも有益です。

6. まとめ

AI は中学校の授業や校務に**新しい可能性**をもたらしますが、**誤情報・いじめ・心理的依存**などのリスクを併せ持つことを忘れてはなりません。

教師としては、「**どのような目的で、どう使うか**」を明確にした上で、生徒には**批判的思考力や情報モラル**を徹底指導する必要があります。

正しく活用することで、探究活動や文章表現力を高めたり、教員の業務効率化を図ったりできる一方、フロリダ州のような事件を未然に防ぐためにも、**全校体制でのルールづくりとモニタリング**が欠かせません。

今後も学校全体で連携しながら、より良い学習環境をつくっていきましょう。